

NPO 法人 かながわ環境カウンセラー協議会 (KECA)

KECA ニュース =No.56=

【巻頭言】

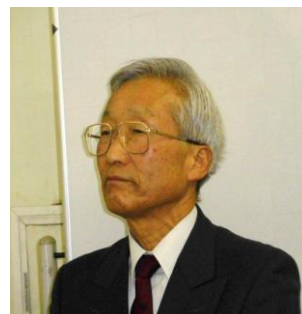
**健全財政の維持につなげる
EA21事業の復活と更なる展開拡大**

理事長 河野 健三

1. KECAの財政基盤を支えたEA21事業

KECAのこれまでの活動、事務所の維持等はEA21の事業収入に支えられていることは論を俟ちません。2004年にはじめられたEA21コンサル事業収入は着実に増加し2010年度にピークとなりましたが、その後の経済状況の悪化もあり2013年度にボトムとなりました。

しかしながら環境管理委員会の尽力により2014年度から回復傾向にあります。この回復傾向を維持し健全財政につなげるには、環境管理委員会のみには依存するのではなく、他委員会、各支部も含めた幅広い活動の展開が必要であると考えています。



2. 環境教育インストラクター養成セミナーで実感した受講者の満足感とKECAへの信頼感

先日の11月28日、29日に環境カウンセラー全国連合会(ECU)とKECAで共催した環境教育インストラクター養成セミナーにおいて実感した受講者の満足感についてお話しします。

このセミナーは環境省の人材認定事業として実施されるもので、本セミナーの修了証書と必要書類の審査により、ECU環境教育インストラクターとして認定登録されます。

このセミナーは2010年に環境教育委員会により開催され、今回で6回目となります。当時、委員長で前副理事長の高橋弘二さんにより始められ、その後岡本委員長へ引き継がれ、年々充実した内容で実施されています。当方も初回から微力ながらお手伝いをしてきましたが、今回は特に参加して下さった受講者皆様の満足感とKECAに対する信頼感が確実に向上していることを実感しました。

KECAがNPO法人として存続していくためには、この信頼感を得ることが冒頭に掲げた健全財政の維持と共に最も重要なことと考えております。

3. 受講者の満足感とKECAへの信頼感につながったと考えるセミナーの仕掛け

～体験・実習重視の内容とコーディネーターの力量～

環境教育インストラクター養成セミナーでは、実践事例を含めた講義に加え、地球環境・環境経営・自然体験別のワークショップによる実施計画書の作成、模擬授業があり、間にはさんで参加者交流会を設けてお

も く じ

P1 健全財政維持につなげる・・・理事長 河野健三	P7 東京のど真ん中にある植物工場・・・横浜支部 石黒不二夫
P2 嶋田さん環境大臣賞受賞・・・(事務局)	P8 地域の環境イベントに参加・・・湘南支部 中本正治
P2 EC制度改革提言のための・・・監事 木村信幸	P9 茅ヶ崎中学校における出前授業・・・湘南支部 小山 稔
P4 総合研修会(報告)・・・教育委員会 高橋弘二	P10 すかつ子セミナー2015を終えて・・・横三支部 高橋弘二
P5 環境教育インストラクター養成セミナー・・・教育委員会 日吉栄一	P11 今後の支部活動についての抱負・・・横浜支部 村井哲郎
P6 Eco検定試験対策セミナー・・・環境経営委員会 近藤勝養	P11 「相馬野馬追い」見物ツアー・・・横浜支部 岩村順雄
P6 化学物質のリスク以外・・・化学物質委員会 石井員良	P12 三浦半島・城ヶ島で宿泊交流会・・・事務局(代高橋)
	P14 予告、会員数、編集後記

り、特に環境教育委員会の委員（環境教育インストラクター）のコーディネートによるワークショップは大きな効果を生んでいます。お互い初めて顔を合わせた参加者同士が、これらの体験によりお互いの気心が分かり、セミナー終了後の一人ひとりの表情は明らかに違い、満足感がありました。

受講者が抱える課題に答え、実施計画書の作成を支援する力量は一朝一夕で得られるものではなく、日頃の実践を重ねている環境教育委員会各委員の指導・支援に頭が下がります。

お客様の立場を事業者として考えれば、EA21事業で事業者が抱える課題（ニーズ）を解決するための道筋を示すコンサルが提供できれば、事業者の満足感が得られ KECA への信頼感につながっていくと考えます。

4. 会員の得意分野を生かしたセミナーの開催をEA21事業の展開拡大へつなげる仕組みづくり

先に述べた環境教育インストラクター養成セミナーに先立ち、11月14日に化学物質委員会が「化学物質のリスクアセスメントセミナー」を開催しました。検知管による作業環境測定の実験実習、例題による化学物質のリスクアセスメントの作成演習があり大変好評でした。また、来年2月には環境経営委員会で安全衛生管理のセミナーも予定されています。このように KECA 会員が有する経験・知見を生かした得意分野で様々なセミナーを開催し事業者が抱える改善すべき課題への支援を行っていきます。

これらのセミナーをEA21事業の展開拡大へつなげていくために仕組みづくりが必要です。別途、会員の皆様へこの仕組みづくりに参加して頂ける方を募集しますのでご協力の程よろしくお願い致します。

以上

嶋田和夫さん（湘南支部・環境教育委員会） 平成27年度地球温暖化防止活動環境大臣賞受賞

嶋田和夫さん（湘南支部・環境教育委員会）が12月2日（水）イイノホール&カンファレンスセンターにおいて、平成27年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受けられましたのでご報告いたします。誠にありがとうございます。受賞者：個人2・団体34（環境教育活動部門6）

活動の名称：環境教育・環境学習等による地球温暖化防止活動

県内の子どもを対象に実験・調査観察等を通じた体験型学習を実施し、地域の環境教育・環境保全活動の推進を担うリーダーを育成。県内各地で開催される環境イベント・展示会での普及活動・環境セミナーや教職員研修会及び地域リーダー研修会の講師を含めて2004年から延べ100件程度実施。また、アジェンダ21 かながわ環境活動支援コーナーのアドバイザーとして、平成17年4月から、環境相談支援活動を毎年約60日、累計で530日の相談を受け入れている。

（平成27年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰パンフレットより）



環境教育インストラクター養成セミナーで講義中の嶋田さん（2015.11.28）

EC制度改革提言のための「関東Aブロック」意見交換会

監事（ECU 理事） 木村信幸

ECU 総会で承認された2015年度事業計画の中に組織強化の一環として「環境カウンセラー（以下EC）制度改革提言のためのブロック意見交換会」の開催が盛り込まれており、8月8日の「関東Bブロック」を皮切りに11月7日の最終「北海道ブロック」まで全国8ブロックでそれぞれ実施され無事終了しました。

KECA が所属する「関東Aブロック」の意見交換会は、10月4日（日）午後、所属7協（議）会21名

[内 KECA (敬称略) : 河野、近藤、先崎、高橋、玉川、早野、三島、木村] 及び ECU2 名の総勢 23 名がフクシア (横浜市西区) に集い開催されました。概要を以下にご報告します。

ブロック内各協 (議) 会の代表 (理事長または代行) が各協 (議) 会の活動状況を説明した後、ECU 佐々木進市理事長から今回のブロック意見交換会開催の趣旨説明 (開催案内からの引用を含む) がありました。

背景として、①2015年3月、平成26年度 EC 制度検討会の報告書「EC 登録制度の在り方について」が環境省に提出され、2018年度までのモデル事業を踏まえた 2019年度からの地域事務局の設置、それに伴う各種課題があること、②EC 登録者数の大幅な減少傾向に歯止めがかけられないことがある。かつ、我々 EC 自身の改革も必要であることから、我が国の環境保全活動に対してどう貢献し、見つめ直していくか、制度の新しい在り方を広く社会に提言していくことが必要であり、そのタイミングは2015年の今をおいてない。ECU として独自の立場で EC 制度の改革提言を行いたい。

次いで、参加者 (ECU を除く 21 名) が4つのグループに分かれて、それぞれグループ討議を行い (約 2 時間)、その後グループ代表が発表を行いました。

各グループから出された EC 制度改革提言のための主な意見 (横浜宣言暫定版より抜粋)

- 地域における環境保全活動連携の要になろう。ユース層、特に大学生からエコピープル、環境教育インストラクター、EC になるという一連の流れを作り、その過程で大学、企業、市町村等と地域における連携体制を作っていくことが我々の戦略。
- 「アクティブラーニング」による環境教育・ESD を推進しよう。力量向上の専門研修を開催すべき。
- 地域における「環境資格等」と連携し、EC 予備軍として位置づけて登録者の増加につなげる。
- EC 登録者減少の危機感を共有しよう。ECU が中心になって問題解決にあたる必要がある。
- 登録者減少の原因を除去しよう。門前払い的な申請条件を改善し門戸を広げること、申請者の合格率を上げること、特に面接の位置づけを再検討し、面接での低い合格率を是正すること。
- EC の魅力づくりを考えよう。EC を国家資格に格上げしていく運動をする。環境教育等促進法第 8 条の「行動計画」の作成を地域 (市町村) 密着型環境カウンセリング活動として関与していく。
- EC 制度に組織的活動を盛り込もう。地域に根ざした組織的環境カウンセリング活動というコンセプトが大切。活動を通じて市町村との信頼関係を築き、組織として政策提言することが重要。
- 全国区の活動や EC の露出度を高めて知名度を上げよう。例えば、横須賀市では市の環境教育指導者資格の要件の一つに「EC であること」が明記されている。これを全国的に拡大していく。
- 特に市民部門の申請者への登録支援をしよう。実務経験証明書/活動実績証明書の第三者による証明 (要公印) が市民部門申請者の大きな壁になっており、地域の協 (議) 会が証明機関になって支援する。
- 募集期間の延長と募集要項の早期発行をしよう。募集期間が 7 月 1 日～8 月 14 日の 1 ヶ月半、募集要項は募集開始直前に発行というパターンの繰り返しである。何としても是正が必要である。

なお、今回 (宣言としての) 全体のまとめまでは至りませんでした。関連情報は ECU のホームページをご覧ください。

[参加者] ECU2、千葉 3、
武蔵野・多摩 2、
東京城南 2、杉並 2、
東京城北 2、かながわ 8、
静岡 2
(ECU ホームページより)



意見交換会に参加されたみなさん (前列右から 3 番目が佐々木 ECU 理事長)

【総合研修会】

「市民協働について」湘南国際村センターで研修のあと 協働参加型めぐりの森の自然観察・散策

環境教育委員会・横須賀三浦支部 高橋弘二

地域の仲間と「三浦半島自然ふれあい楽校」をつくり、横須賀市一葉山町の丘陵にある湘南国際村めぐりの森の保全・利活用に取り組んでいます。今年の総合研修会は湘南国際村で開催し、「地域における市民協働について」理解を深め、環境カウンセラーとして知見、経験を活かして地域で活動するきっかけになればと、活動の現場で開催いたしました。

[8月29日(土)10時～15時半、参加者:会員17名(会員外1名)]

1. 「市民協働について」の研修

(1) 「めぐりの森」における三浦半島自然ふれあい楽校の活動について 代表 野崎章子さん

湘南国際村めぐりの森は、地域の活動団体による三つのコア事業と三つの公募事業により、保全活用されている。三浦半島自然ふれあい楽校は、地元横須賀市、葉山町で環境保全、環境教育活動を行っている11の団体の協働により、コア事業の一つとして活動している。主な活動は次の通り。

①「サマースクール(SS)」、「オータムフェスタ」

SSの1コマとして毎年、かながわ環境カウンセラー協議会の協力により「環境カウンセラー養成セミナー」を開催している。また環境カウンセラーの高橋、中村さんが所属する横須賀「水と環境」研究会の協力により、毎年「小川の生き物観察会」「前田川の源流・完全踏破」を実施している。

②環境モニタリング調査(対象:小学生、“自然博士になろう”、すかつ子セミナーにも参加)

③植樹・育苗・どんぐり拾い(地元小学生、保育園・幼稚園児の指導)

④茅場、森の整備:林野庁「森林、山村多面的機能発揮対策交付金」を活用

2. 市民協働の取り組みについて KECA 環境教育委員会・横須賀三浦支部 高橋弘二

①身近に環境カウンセラーの知見、経験を活かして取り組めること

②個人より賛同できる団体に所属した方が、信頼度が増し活動の範囲が広がる。

③団体同士が協働するネットワーク、連絡会は、更に活動分野、地域が広がる。

実践事例を紹介。“楽しかった、ありがとう、また”の言葉を励みに「仲間と一緒に楽しく！」

参加者が2班に分かれて、「市民活動、市民協働の取り組み」について意見交換を行った。

3. 湘南国際村めぐりの森の自然観察・散策



(1) 樹齢約400年の“子安の大タブの木”を前に、野崎さんから説明を聞く。



(2) 公募事業“森と畑の学校”の取り組みについて説明を聞く。ヤギの親子も遊んでいた。



熱心に説明を聞くみなさん



(3) めぐりの森の散策を終えて、湘南国際村センターをバックに研修会参加者の記念写真(撮影:高橋)

[環境教育委員会]

環境教育インストラクター養成セミナー報告

副委員長 日吉 栄一

11月28日(土)29日(日)の2日間、2015年度の環境教育インストラクター養成セミナーを、かながわ県民センター(横浜)で開催いたしました。当日は、遠くは北海道、長野県、山梨県からと首都圏以外からの参加者もあり(計16名)、環境教育に対する関心の高さを物語っていました。

□主催者として、ECUの佐々木進市理事長、KECA河野健三理事長の挨拶の後、

関東地方環境事務所環境対策課長平野寛人様から「最近の環境行政の主な動向・ESD」について講義頂きました。その後は、KECA環境教育委員会の委員(ECU環境教育インストラクター)が講師となって

(1)環境カウンセラーが見た最近の環境問題(大竹)、(2)環境教育の場と安全対策(嶋田)、(3)地域での環境教育・幼児/小中学生/市民(高橋)、(4)森林の環境教育(田中)、(5)環境教育を行う上での要点(岡本)、2日目:(6)事業者向け環境教育(三島)が実践事例を中心に講義が行われました。

□講義の後は、受講生が主体となって(A-1)地球環境・生活環境系、(A-2)環境経営・事業者教育系、(B)自然環境系の3グループに分かれてワークショップを行い、それぞれグループで環境学習実施計画書・自然体験実施計画書を作成いたしました。この経験をもとに参加者自らの計画書を作成(宿題として翌朝提出)、2日目に全員が自らの実施計画書に沿って模擬授業(10~15分間)を行いました。

□この後、各グループから代表1名が模擬授業を実施し、質疑、講師のアドバイス、講評が行われました。

□最後に、環境教育インストラクター認定登録手続きの説明の後、河野理事長より受講生一人ひとりに、認定取得に必要な「環境教育インストラクター養成セミナー修了証」が授与されました。以上、セミナーを終えたところでKECAの活動について紹介し、入会の勧誘をいたしました。

【セミナーの振り返り】

今回は16名の参加で、うち環境社会検定試験合格者(エコピープル)が約7割を占める構成となりました。セミナー開始直後、受講生みな緊張している中での講義では少々硬さはありませんでしたが、セミナーが進むにつれ身近な話や講演者の思いなどが徐々に伝わり、緊張が解れてきました。その後、グループに分かれ、受講者同士で自己紹介やセミナー受講の理由などを話すにつれセミナー仲間の意識が醸成されてきました。

2日目の受講生が自ら行う模擬授業では、テーマに沿った道具や鳥の鳴き声が聞こえるハイテク機器等持参する人もいて、自らの強みをいかんなく発揮する受講者も出てきました。

2日目、宿題コピーの時間を利用して行う交流懇親会(茶菓提供)では、受講者間、受講者-講師・スタッフ間で親しく談笑できるため、その後の模擬授業や今後の交流にとっても役立っていると思います。

受講者のアンケートでは、セミナーの内容に対し16名の受講者のうち実に15名(94%)が満足との評価を頂きました。また、セミナー終了後も少人数での会話の輪が続くなど和やかなうちに散会となりました。

なお、会場のかながわ県民センターは、立地が良く足回りも便利でしたが、寒い日が続いたにもかかわらず、暖房は12月以降でないに入らない規則となっていました。会場も寒さ対策を十分にすることが必要であることを痛感し、次回の反省としたいと思います。



実習を交えての講義風景



受講者による模擬授業



交流懇親会風景

[環境経営委員会]

eco検定試験対策セミナーとBCPセミナー

委員長 近藤 勝養

環境経営委員会は横浜駅東口のフクシアで3回開催した(7月18日、9月3日、10月31日)。

これまでの活動は、環境経営推進の一環としての中小企業に対するBCP(事業継続計画)の構築支援及びeco検定試験対策セミナーの年2回の定期開催であった。

1. 「18回eco検定試験」対策セミナーは「KECAニュース55号」で報告したが、その受講者は全員が合格しました。「19回eco検定試験」対策セミナーも11月3日にフクシアで開催した(受講者8名、講師3名)。今回も受験者全員の合格を期待し、今後も継続して実施していく予定です。

eco検定テキストの内容は持続可能な社会の構築に大いに役立つ内容なので環境カウンセラーの方にも受講をお勧めします。

2. 中小企業では、BCP(事業継続計画)の構築支援のコンサルを希望する企業が当協議会の関係では少なく、今後のコンサルの見通しもあまり期待できないことから、中小企業への環境経営の支援の枠を広げ、「中小企業の安全衛生活動に役立つセミナー」を開催することにしました。

本セミナーは労働安全衛生法の一部改正に基づく化学物質のアセスメント、ストレスチェックを主体のプログラムで2016年2月19日(金)の午後にフクシアで開催します。KECAのホームページ等でPRしますので、会員も含め、企業からの多くの参加をお願いします。



*****◇◇◇*****◇◇◇*****◇◇◇*****◇◇◇*****◇◇◇*****

[化学物質委員会]

化学物質のリスクアセスメントセミナー開催報告

委員長 石井 員良

11月14日(土)10時~16時、フクシア(横浜市西区社会福祉協議会)多目的ホールにおいて「化学物質のリスクアセスメント」セミナーを開催しました。化学物質のリスクアセスメントについては、平成18年(2004年)3月に「化学物質等による危険性又は有害性等の調査等に関する指針」が公表され、大企業等では実施されてきましたが、ほとんどの中小企業では実施されていないのが実情です。

また2012年3月、大阪府内の印刷事業場において化学物質の使用により胆管がんを発症した旨の労災請求があり、その後、他の印刷事業場においても同様の労災の発生が相次いで明らかになったことが、

「労働安全衛生法の一部を改正する法律」の改正(平成26年(2014年)

6月25日)に、大きく影響した結果でもあります。平成27年(2015年)9月18日には、新「化学物質等による危険性又は有害性等の調査等に関する指針」が公表されたこともあり、関係者の関心が高まった時期での開催でした。

参加者は、29名(うちKECA会員12名、うち当日欠1名)でした。

1. 内容

セミナーは、以下の講義、実習、演習の3部構成で実施いたしました。



パワーポイントを使用している講義風景

(1) 講義：化学物質のリスクアセスメントの概要について

(2) 実習：作業環境の測定を検知管により体験する

(3) 演習：例題による化学物質のリスクアセスメントの作成

講師、および作業環境測定の補助者等いずれも化学物質委員会の会員が担当し、多少の不便はありましたが、チームワークよくセミナーを進行することができました。

2. 参加者のアンケート結果

アンケートの結果は、セミナー全体の評価として、「リスクアセスメントの不明点が解消されました」、「大変良い、特に、実習・演習」、「具体的な、実務的講義で大変勉強になりました」など、好意的な評価が多く、講義、実習、演習いずれも参加者の70%以上が、満足（大変参考になった、少し参考になった）されていることが分かりました。

この結果は、望外の結果でしたが、セミナー開催のタイミングが非常に良かったことを示しているとも思っています。今回のセミナー開催の体験を今後の化学物質委員会の活動に役立てたいと考えています。ご期待ください。

改めて、セミナー開催にあたっての化学物質委員会及び KECA 会員の皆様のご協力に感謝いたします。なお、セミナーの資料をご希望の会員の方は、KECA 事務局までご連絡願います。

*****★★★★*****★★★★*****★★★★*****★★★★*****

[横浜支部]

東京のと真ん中にある植物工場の見学・研修会の記録

いくらか涼しくなった9月16日、東京駅八重洲北口から徒歩2、3分の大手町2丁目の大通り四つ角に面した9階建てのビルにある人材派遣サービス事業を営むパソナグループの本社へ、KECA 横浜支部メンバーなど10名が訪問した。2010年3月にD証券会社から築50年余の老朽化ビルを譲り受け、補強・改装して、9階建物の外壁にバラ・藤などの枝もの花卉や楓などを一面に植生し、通行する人々に花や紅葉を楽しませている。

植物生産施設は1、2階に配置し、3階以上は本部オフィスとして利用している。屋上には庭園が造られ、中央に木製のテーブルと腰掛が置かれている。サルスベリ、桃などが植生されている。

◆【植物工場の見学】

見学コース（無料）は1、2階で、1階には稲穂の水田があり驚かされた。面積は約90m²とそれ程広くないが見事に実っていた。水栽培で照明はメタルハライドランプと高圧ナトリウムランプで成長を促進し、年3回収穫できるとのこと。野菜は主に葉モノの野菜を育成しており、HEFL照明を使用することで、蛍光灯に比べて省エネであるとのこと。

植物工場と称しているが規模が小さく収穫物を販売している訳ではなく、ビル内の社員食堂に提供している程度の収穫量とのことである。

2階の打合せなどに活用できるフリー라운ジの壁面や天井には、パプリカやインゲン豆など多数の植物を小規模に実験栽培していて植物実験室のような感じでもあった。東京の中心地でいつでも誰でも見られる植物工場を創ったアイデアは素晴らしい。



実習：検知管による作業環境の測定



玄関前で説明を受ける



外壁の緑化



屋内のに栽培された稲穂の前で



植物の苗栽培室

◆【植物工場での講義】 テーマ「植物工場の今」～野菜の溶液栽培を中心に～

講義は9階の会議室で(株)パソナ農援隊アーバンファーム事業部の職員により約1時間説明を受けた。

1. 植物工場とは、高度な園芸施設の一つ(保温、自動給水、変温装置等の装備付)
 特長 ①場所を選ばない ②安定生産可能 ③管理の手間が少ない ④無農薬が可
2. 日本での植物工場の実用化は1946年サラダ用野菜生産(調布市)以降始まる。
3. 植物工場の養液栽培:根の部分が囲われており、液体肥料を調節し生育調整可能である。養液栽培には
 ①水耕栽培と②固形培地栽培があり、露地栽培より負担が少ない。
4. 植物工場のタイプ ①太陽光利用型(果菜) ②完全制御型(葉物)
 稼働中のパターン ①固型培地耕栽培+太陽光利用型 ②水耕栽培+完全制御型
5. 植物工場への参入企業:全国の植物工場数 276ヶ所(2013年3月現在、2009年は50ヶ所)
 【広報】(独法)都市再生機構(大手町F Cビル)(株)サブウエイ(新丸ビル)
 【プラント販売】大和ハウス「アグリキューブ」三菱化学「コンテナ式植物工場」
 【最近の農業ビジネス参入】京王電鉄(高尾狭間間) スプレッド(亀岡市)
6. 植物工場産野菜の栄養価・販売価格 無菌で栄養価は高いが価格は高い(3~4倍)。
7. 植物工場の導入費用:規模により17,550円(家庭用)、
 850万円(プレハブ式)、5,000万円から6~7,000万円
 (コンテナ式、電池付)
8. 全体として植物工場では葉物類が主力で根菜類にはまだ向いてないとのことである。

質疑応答後、研修は16時過ぎに終了し、屋上に出て屋上の植物類の説明を受けた後、記念写真を撮り、1階水田前で再び写真を撮って解散した。大変有意義な見学・研修会であった。幹事太田氏に深謝。(横浜支部 石黒不二夫記)



受講風景

*****∞∞∞*****∞∞∞*****∞∞∞*****∞∞∞*****

[湘南支部(1)]

地域の環境イベントに参加

支部長 中本 正治

湘南支部は毎月月末の金曜日に定例会を開催しています。

今年度は藤沢・茅ヶ崎地区の3つの環境イベントに参画しましたので報告します。

1. 第2回リサイクルプラザ藤沢フェア～Eco夏祭り～

8月1日(土)、リサイクルプラザ藤沢の環境啓発施設で3Rの取り組み、再生可能エネルギーの活用等の普及啓発事業のイベントに参画した。

科学ワークショップで、「浮沈子を作ろう」を実施しました。特に小学生に大人気で、用意したペットボトルが不足しました。

2. ちがさき環境フェア2015

9月20日(日)茅ヶ崎市役所6階の展示コーナーと体験コーナーに参加。展示コーナーにはKECAのPRパネルを展示し、「キッチン実験室」ではイソジンを使って食品のデンプン探しと「浮沈子の工作実験」を実施しました。多くの子供の参加(午前20名、午後40数名)があり、予定したペットボトルを使い切りました。



大人気の「浮沈子」づくり

3. 祝20周年ふじさわ環境フェア ふじさわEcoまつり2015

11月21日(土)藤沢市民会館でリサイクル品を使用した工作体験「空気砲の製作(ペットボトルとゴム風船で)」は特に親子連れに人気があり、ペットボトルの風車は、家庭菜園の鳥よけ用にと年配の方に人気がありました。



環境イベント協力メンバー



親子に懇切丁寧に説明する

[湘南支部(2)]

茅ヶ崎市立中学校において環境出前授業を実施

湘南支部 小山 稔

6月26日(金)の午後、市立第一中学校1年生の総合的な学習の時間に茅ヶ崎の環境に関する出前授業を茅ヶ崎市環境政策課とエコワークまちづくり部会の共催で行った。

この出前授業の目的は、「環境と私たちの暮らしが、いかに密接に関係しつながっているか」に、生徒が気付いて、身近な環境問題について、どんなことができるかを生徒自身で考え、行動する力を養うことにある。

生徒は1学年5クラス全員で197名。5時間目は講義で学校の体育館に全生徒が集まり床に腰を下ろしての学習、6時間目は各教室に戻ってからのワークショップ、いずれも各50分間の合計100分間の集中授業である。5時間目の講義の講師を環境カウンセラーの小山が担当した。講義のタイトルは、学年主任の先生と相談した結果、「私たちの暮らしと茅ヶ崎の環境」、内容は「ごみと資源物の処理、地球温暖化、自然環境」の3つとなった。

ごみと資源物の処理では、茅ヶ崎市民が排出するごみ・資源物の量、ごみ・資源物処理の流れ、ごみ処理の基本となる4R(リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル)、最終処分場の残存年数やごみや資源物の出し方と資源物の分別・リサイクルする際の注意点などについて解説した。

地球温暖化では、地球温暖化とその原因や私たちの暮らしにどんな影響があり、その影響を減らすためにはどうすればよいかなど、IPCCAR5統合報告書のデータ情報などの解説と、市民や中学生でもできる身近な具体的な対策例について解説した。

自然環境では、茅ヶ崎市のコア地域(自然が豊かで生態系ネットワークの核となる地域)の場所やそこに生息する生きものたち、街中で見られるみどり(保存樹林や街路樹)、自然環境を知ることができる自然観察会や体験学習などの



出前授業でクイズに答える生徒達

イベントの紹介、さらに茅ヶ崎の自然環境における課題（みどりが減少、外来種が増加、生物多様性が減少）や自然環境を保全するために中学生ができることや取り組んでほしいことなどについて話した。

講義は写真のように、スクリーンに画像を映し出ししながら、クイズと質問を交えて行った。会場が広く、生徒数も多かったので、クイズは主に2択方式の挙手回答を採用したが、生徒は最後まで熱心にクイズや質問に答えてくれたので充実した授業となった。

6時間目は各教室に戻って担任の先生の指導の下でのワークショップ。各クラスの生徒は6班に分かれて、「ごみ・資源物」、「地球温暖化」、「自然環境」の3つのテーマから一つを選んで、自分たちができることや取り組みたいことを班毎にまとめて模造紙に書いて発表した。

まちづくり部会会員7名と市環境政策課職員3名は、2名ずつ各クラスの支援スタッフとなって、生徒が困っていたらヒントを与えるなどの支援を行った。生徒たちは、はじめはテーマ選択などに戸惑っていたが、やがて活発に意見が飛び交うようになり、環境への関心が高まるのが感じられた。後日提出された生徒たちのアンケートの回答に記された授業への感想や環境への取り組みについての意見・質問などからも、今回の出前授業は生徒たちの環境意識の啓発におおいに役立つことができたのではないかと思う。

*****∞∞∞*****∞∞∞*****∞∞∞*****∞∞∞*****∞∞∞*****

[横須賀三浦支部]

“すかっ子セミナー2015”を終えて

すかっ子セミナーは今年が14年目、自然系など7コースを催行し、市内の小中学生66名（複数コースの受講者あり）が参加しました。5月にスタートし10月までの6ヶ月間毎月1回土曜日にプログラムを実施し、11月14日（土）午後、横須賀市の「まなびかん大学習室」において合同発表会（修了式）を行いました。

KECAメンバーは、5コース自然系A“川がき探検隊（17人）”、8コース自然系D“海っ子・山っ子（17人）”を担当したほか、実行委員会のサポートを行いました（中村、小嶋、遠田、高橋=記）。

5コース“川がき探検隊”は、横須賀を流れる川間川、荻野川、野比川、前田川、関根川を河口から遡り源流まで、途中で水質、水生生物調査（魚捕り）のほか、水遊び、滝登りなどで遊びました。

8コースは横須賀が三方海に囲まれているので、今年は“わん（湾）で遊ぶ”をテーマに表記したような内容のプログラムを実施しました。岩礁の潮だまりで魚を捕まえたり、タコを手づかみしたり、最後は恒例

となった城ヶ島大橋を歩いて渡り、馬の背洞門の磯で楽しく遊びました。



アオダイショウを捕まえた



滝登りで遊ぶ



アマモ場の生き物の解説を聞く

表 8 コース自然系Dのプログラム

月 日	内 容
5月16日	オリエンテーション後、浦賀道を歩く
6月20日	浦賀湾、浦賀の渡しで灯明堂へ
7月18日	小田和湾(相模湾)、天神島へ
8月1日	深浦湾のアマモ場で生き物観察
9月19日	平潟湾、野島から海の公園へ
10月17日	最後は今年も城ヶ島へ
10月31日	「まとめ」と発表会準備



城ヶ島・馬の背洞門前の磯で遊ぶ

[投稿]

今後の支部活動についての抱負

村井 哲郎 (横浜支部・支部長)

今期から、横浜支部長を仰せつかっています。横浜支部は最近退会された方々もあり、45人と以前に比べ少なくなりましたが、それでも KECA の支部で最大のメンバー数を誇っています。いわば日本における東京都のようなものです。

KECA という NPO 法人は、何か生きがいを求めておられる方々の集団です。仕事人生も一段落し、このまま老け込むには時間が有り過ぎる、何か世の中の役に立つことを皆でやってみたいという方々は大勢居られて (私もそうですが)、KECA はその一つの場を提供していると言えるでしょう。ですから入会したからには、色々な意見を積極的に提案し、仲間を募り、前向きに展開していくように努めて頂きたいと思います。

KECA の財政は潤沢でないため、十分な活動費は出ません。従って皆様のボランティアに頼ることが多くなります。しかし、多少の収入を期待出来る活動 (エコアクション21、環境教育関係等) もあり、これらが KECA の収入の一部を支えていますので、更に育てる努力が必要です。

これら潜在的収入源を育てる活動には各支部の活動が欠かせません。人は結局、地域をベースにしていますので、地域の活動を活発化するように、予算面、管理権限においてもメリハリの効いたインセンティブを与えるようにした方が全員活動になり、KECA にとって得策です。中央の委員会一本でコントロールしようとしても、効率が上がりません。中央はむしろ各支部の活動が活発になるように配慮すべきだと思います。

支部の活動が今後益々活発になるように、そのためにも風通しの良い支部会にしたいと思います。それには皆様のご協力が必要不可欠ですので、どうぞ宜しくお願い致します。

*****◇◇◇*****◇◇◇*****◇◇◇*****◇◇◇*****◇◇◇*****

[他協議会との交流]

相馬野馬追い見物ツアー

～NPO 法人福島環境カウンセラー協会からのお誘いを受けて～

福島の環境カウンセラー仲間との交流は、木村前理事長を发起人としたあの東日本大震災の応援訪問以来、毎年ほぼ途切れることなく続いています。当時の NPO 法人福島環境カウンセラー協会会長澤会長が自ら、KECA の参加する行事で震災後の現状を訴える等多くの共感を呼ぶ報告がなされました。今年はスケジュールが合わず復興再生事業への応援参加はできませんでしたが、当地伝統の「相馬野馬追い」行事の見物のお誘いを受けましたので、会員に参加を呼びかけ、東京、千葉からの仲間も加わって「現地へ出掛け、見て、聞いて、食べる」福島応援を行って来ましたのでご報告します。(木村、河野、福田、高橋、岩村=記)

□往路：東京駅から高速バスで「いわき湯本 IC」へ。予約していたレンタカー2台に分乗し、長澤さん (福島環境カウンセラー協会会長) の車の先導で、いわき湯本温泉の由緒ある宿「松柏館」へ。

□懇親会：現地から長澤会長、岩橋さんに、東京、千葉からの女性が加わり計9名、夕食をいただきながら自己紹介、お互いの協(議)会の現況、課題などを話し合う。

□現地へ：レンタカーで再開して間もない常磐自動車道を走る。道路に「現在の放射線量〇〇マイクロベルト」の電光表示灯。汚染土の堆積場も見える。南相馬 IC で降りて、野馬追い会場に近い岩崎さん宅の庭に駐車。

□鎧兜の試着：手伝ってもらいながら鎧を着け兜をかぶり、腰に刀、揃ったところで記念撮影。

□騎馬武者行列の見学：一族ごとに騎馬武者行列をつくって行進、その数2～300騎、延々と続く。行列の前を横



松柏館での懇親会風景

切った人がいて、“無礼者！”と騎馬に追いかける光景も。

□野馬追い：炎天下、花火と共に打ち上げられ、落ちてくる「お札」を数百騎が競って取り合う勇壮な光景、この後、資料博物館を見学する。



鎧兜を試着して



騎馬武者の行列



野馬追いの会場風景

〔宿泊交流会〕

三浦半島を見て歩き、南端・城ヶ島で懇親会

これまで総合研修会Ⅱは、1泊2日（土、日曜日）の研修会として実施してきましたが参加者が少なく、今年から交流懇親を目的とする忘年会を兼ねた宿泊交流会として12月5日（日）、6日（月）、三浦半島の南端・城ヶ島京急ホテルで実施しました。折角ですので、三浦半島の豊かな自然の散策と食を訪ねました。

1. 葉山しおさい博物館

9時、JR 逗子駅集合（8名）、バスで約15分、葉山（御用邸前）バス停で下車、5分ほど歩いて「葉山しおさい博物館」に到着。こじんまりした博物館で、昭和天皇が葉山御用邸で調査研究中に葉山海岸周辺から採取された海洋生物28点が展示されており、ほかに相模湾に因んだ生物、相模湾を特徴づける深海生物などの標本が展示されている。

裏庭はコイが泳ぐ池を中心とした日本庭園があり、噴井の滝のまわりの紅葉が見事で、しばし散策を楽しんだ。この後、裏の松林を歩いて一色海岸へ。真っ青な相模湾の向こうに白銀の富士山が望め、一同、感激、富士をバックに記念写真を撮る。



昭和天皇御下賜標本の部屋で



葉山しおさい博物館の日本庭園で



御用邸裏の一色海岸で（背景正面遠くに富士山）

2. 名勝「立石」で途中下車

葉山バス停から再乗車し、お昼の大楠芦名口へ向うが、車窓から海に浮かぶ名勝「立石」が見えたので、急遽途中下車する。初代安藤広重が富士山をバックに海に浮かぶ立石を浮世絵に描いており、晴れていて絵そっくりの風景を見ることができた。立石公園を歩き、泉鏡花の「草迷宮」の歌碑を見る。

3. SHOKU-YABO (谷戸の奥の食事処)

再びバスで南下約15分、大楠芦名口バス停で下車。関東ふれあいの道でもある大楠山ハイキングコースを約10分歩くと、山の麓に静かにたたずむ溜め池・芦名堰に到着。池を眺めながら横須賀市と市民団体が市民協働で実施したビオトープ再生事業(保全・利活用)について説明する。近くにアオサギの姿も見られた。

この後、谷戸奥へ進むと畑が広がり、奥に素朴な食事処があった。チョークで書いたメニュー“畑で採れた野菜のほかは産地がわかる自然食材を使ってつくる「かて飯(まぜご飯)」4種類”の説明を聞いて、それぞれオーダー。素朴な木製のトレーで運ばれてきた「かて飯」を野外の木製テーブルを囲んでいただく。量も多く味もよく、自然の中でいただく自然食はおいしい。

4. “すかなごっそ”(JAよこすか葉山の産直のお店)に立ち寄る。

5. 三崎港からエコ渡船で城ヶ島へ

バスを待つ間、4、5坪の空き地に植えられた野菜畑を囲んで、しばし野菜づくり談義。バスは京急三崎口駅経由で終点・三崎東岡へ。10分ほど坂道を歩くと三崎港に着く。彩色の観光船の手前に停泊していた「白秋号」で城ヶ島へ渡る。乗り込むとすぐに出航、この船は家庭の廃油などを燃料にしている「エコ渡船」といわれている。わずか5分で城ヶ島の栈橋に横付け、下船する。

6. 城ヶ島大橋の袂の白秋記念館へ

岸壁で釣りを楽しむ親子や女性の釣り果を覗きながら城ヶ島大橋袂の白秋記念館へ。城ヶ島大橋を背にした砂浜に「雨が降る降る城ヶ島の磯に・・・」と詠われた白秋の歌碑がある。階段を上がった記念館には、客は誰もおらず閉館(16時)の片づけ中のところに入館。展示作品などを見た後、詩聖とうたわれた北原白秋(1885~1942)が三崎で過ごした生活、文学活動などの足跡を映像化したVTRを鑑賞する。

ここでホテルに電話して、バス通りまで迎えに来てもらう。日帰りの3人(太田、村井、野々村)は近くのバス停から京急三崎口駅へ。

7. 城ヶ島京急ホテルでの宿泊交流会

相模湾の波が打ち寄せる岩礁の上に建つ城ヶ島京急ホテルに16時30分に到着。2人、3人の2部屋に入りくつろいだ後、大浴場でゆったりと湯に浸かり一日の疲れをとる。

18時から、食事処の部屋で夕食。ビールで乾杯、そしてお酒、焼酎。地元産の新鮮な魚介類など豪華料理をいただきながら歓談、今日の三浦半島散策の感想のあとは、“どうして参加者が少ないんだろう”と愚痴がでる。そしてKECAの活動の現状、問題点、今後のあるべき姿等などについても・・・。

食事の後、カラオケの部屋を覗いたが満室であきらめ部屋に戻り、みんなで談笑しながらテレビ「花燃ゆ」を居眠りしながら見る。

8. 城ヶ島の散策

(1) 翌日7日(月)、今日もいいお天気。ロビー正面に相模湾越しに、7合目以上を雲の上に見せた富士山が望めた。9時にホテルを出る。岩礁を結ぶ赤い橋を渡る。岩の断面に描かれたきれいな地層、断層模様を観察するが、誰も詳しい説明ができない。またの機会に専門家に案内してもらいたい。

(2) 原さんを始発のバス停に送り、4名(河野、木村、岩村、高橋)は城ヶ島の散策へ。江ノ島を思わせる両側にお土産店が並ぶ狭い通りを抜けると、岩礁が広がる城ヶ島南岸・長津呂崎に出る。広い岩礁には海浜植物が生え、あちこちに淡水の水溜りがある珍しい風景が見られる。しばらく岩礁上に道があるような、ないような岩の上を歩いて砂浜に出ると、前に特徴のある馬の背洞門が見えてくる。

(3) 急な階段を登って振り返ると、今歩いてきた岩礁の向こうに富士山が望めた。雑木林を抜け、ボツボ



名勝・秋谷海岸の立石



白秋碑と城ヶ島大橋

ツ咲き始めたスイセンの道を行くと「ウミウ展望台」に出る。左前方に見える赤羽根の岩壁は、千島から飛来したというウミウの糞で真っ白、先端付近にたくさんのウミウの黒い姿が見えた。

(4) この後は県立城ヶ島公園へ。剪定中の黒松林を抜けると明るい芝生広場が広がり、左に海を越えて宮川の2基の風車が見える(1台は休止)。展望台に登り、東に三浦半島の劔崎、大型船舶が行き交う東京湾、館山まで延びる房総半島、そしてま〜るく見える太平洋の大海原、西には伊豆半島、雲の上に空高く薄っすらと白銀の富士の頂を望むことができた。

9. 三崎はやっぱりマグロ

お天気に恵まれ身も心もリフレッシュ、会話を楽しみながら坂を下り、バスで三崎港に戻る。新鮮魚介類の産直センター「うらり(海を楽しむ里、魚を楽しむ里)」に立ち寄り、威勢のいい売り子の声を聞きながら新鮮・加工魚介類を見て歩く。お昼を過ぎたので近くの食堂に入り、メニューで名物マグロ定食の品定め、それぞれが違ったものをオーダー、どれも美味しかった。これをもって懇親会(宿泊交流会)のすべてを終え、三崎口駅に戻り帰途についた。

[企画案内・報告：高橋弘二(横須賀三浦支部)]



馬の背洞門の階段から歩いてきた岩礁を望む



ウミウのいる赤羽根の岩壁を望む

会員数の現況

支部名	会員数	増減
横浜支部	43	-2
川崎支部	13	0
横須賀三浦支部	5	0
湘南支部	11	0
相模原支部	8	0
県央支部	17	-2
西湘支部	10	0
合計	107	-4

(2015年12月1日現在/6月29日比)

市民環境活動報告会

□日時：2016年3月9日(水)13時~16時

□会場：かながわ県民センター2階ホール

□内容：(1) 基調講演

(2) 市民活動者による活動報告 6件

※KECAからの発表(予定)：

「KECAの環境教育人材育成について」

・環境教育委員会 岡本正義、日吉栄一、斎藤明朝

□入場無料、申込不要

<詳細未定>

編集後記◇まずは嶋田和夫さん、環境大臣賞受賞おめでとうございます。KECAでは二人目、次の受賞者(KECAを含めて)を期待しています。◇今号では河野理事長の巻頭言に続き、各委員会、支部の活発な活動の様子を伝えていますが、11ページからは会員に参加を呼び掛けて開催した「相馬野馬追い」見物ツアー、近くの三浦半島・城ヶ島での「宿泊交流会」の楽しい様子を少々詳しく掲載しました。これを読んで“次回は参加してみよう”と思ってくれることを期待して◇パリで開催されたCOP21は、先進国と途上国、島嶼連合でのせめぎあいも決着し、画期的な枠組みが決まりましたが、あとは実行のみ。(高)

[発行] 特定非営利活動法人

かながわ環境カウンセラー協議会(KECA)

理事長：河野健三／編集人：高橋 弘二

□住所：〒231-0001 横浜市中区新港2-2-1

横浜ワールドポーターズ6階 NPOスクエア内

□電話：045-226-5822 FAX：045-226-5825

□E-メール：37keca@kke.biglobe.ne.jp

□URL：<http://www.1a.biglobe.ne.jp/hama37keca/>

[年会費等振込先]

ゆうちょ銀行 口座番号 00260-9-24711